

二木屋「懐石マナー教室」のご案内



- ◇お時間 午後1時から約2時間半
(12時40分までにお越しください)
- ◇参加費 13,200円
(当日現金でのお支払いをお願いします)
- ◇ご持参いただくもの
 - ・ 白いソックスまたは足袋
 - ・ 荷物を一つにまとめられる物
(風呂敷・袋など)
 - ・ お持ちの方は、扇子、懐紙、楊枝

日本国登録有形文化財 二木屋

〒338-0012さいたま市中央区大戸4-14-2

TEL: 048-825-4777 FAX: 048-831-2452

<http://www.nikiya.co.jp>



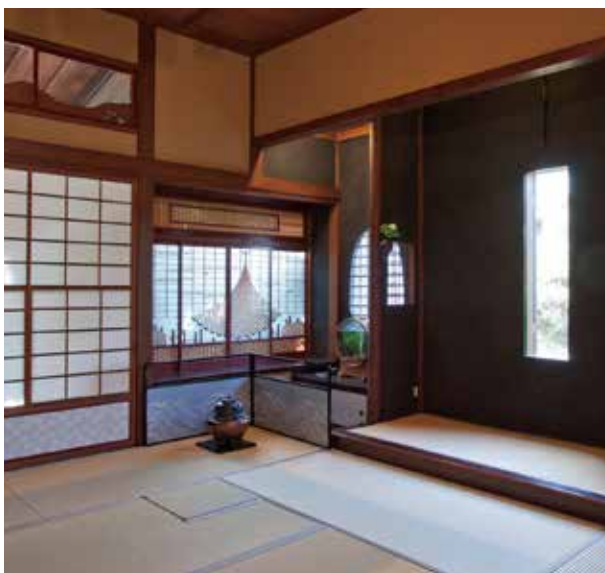
本格的なお茶事の作法を
ご一緒に学びませんか。
お一人からでもお気軽に
ご参加いただける二木屋の
『懐石マナー教室』が
離れ・浅倉家ではじまりました。



◆講師 長井 宗穂
(表千家教授)



◆亭主 森 宗千
(表千家教授)



面倒だと思われる本格的な懐石を、
どなたにでも解りやすく解説し、
懐石料理を堪能していただいた後、
お濃茶を召し上がっていただく会です。

◆茶の湯の世界

茶の湯とは、釜を掛けて、心の通い合う茶友を招き、懐石、濃茶、薄茶のもてなしに二刻(ふたとき・4時間)の清遊を楽しむことです。

お茶事の招待状に「粗茶一服差し上げたく」と書いてお招きしますが、これはお濃茶を差し上げるという事です。茶事のしめくりでこの二刻を振り返り、会話を楽しみながら薄茶を頂いて退席となります。

◆ご懐石

懐石とは、お茶事の中でもてなすお食事のことです。あくまでも、お濃茶をおいしく召し上がっていただくために出される儀礼作法を重んずるお料理です。

お酒を楽しんでいただきながら、ほんの軽いお食事をもてなすものですから、宴会のお食事(会席)とは違います。

◆お濃茶

「連客一同」で一つの同じ茶碗で飲み回すのがお濃茶の流儀です。飲み口は各々懐紙で拭きますが、「飲み回す」という作法が、薄茶との大きな違いになります。

亭主は、飲み回して茶碗に口を付けても抵抗を感じない様な客組を考えます。招待状に連客の名前を書いてご招待するのも、その点をはっきりさせる事を建前にするからです。

◆一期一会

一座に列する連客は、「この顔合わせで、このご亭主に招かれて、お茶を頂くのはこれ限り」という気持ちで、お茶事のひとときを大切に過ごします。

「一期一会」とお茶で言われるのは、このように心を一つにしてお茶事を運ぶ気持ちを現したものです。

◆離れ・浅倉家

建物は、昭和14年に川口・元郷に建てられた浅倉明次郎氏の贅を尽くした邸宅です。

浅倉氏は鑄造業を営んでいましたが、当時は、軍事景気のなかで鑄物業主は競って豪邸を建てました。浅倉家はその歴史的遺構のひとつです。4百坪の敷地に、平屋で百坪の家が建っていましたが、その邸宅の一部を解体移築したのが「離れ・浅倉家」です。

◆お教室の講師

講師は茶道歴47年の長井宗穂さん。表千家の教授です。

亭主は、浅倉氏のお孫さんで茶道歴40年の森千香子さん。(旧姓・浅倉千香子)

80余年前の古い邸宅で生まれ育った森さんが、この家で茶の湯を伝えていくことにも大きな意義があります。